

研究・調査報告書

報告書番号	担当
140	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Alcoholic beverage preferences and associated drinking patterns and risk behaviors among high school youth. 高校生におけるアルコール趣向と飲酒行動パターンや危険行動についての検討	
執筆者	
Siegel MB, Naimi TS, Cremeens JL, Nelson DE.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Am J Prev Med. 2011 Apr;40(4):419-26.	
キーワード	
高校生、飲酒、飲酒行動、危険行動	
要 旨	
<p>目的： 米国において若者に好まれるアルコールの種類やアルコール趣向と地理的特性や行動特性を明らかにする。</p> <p>方法： 2007年に米国内8州の公立高校で実施した the Youth RiskBehavior Survey (YRBS)の調査結果を用いた。日常的に飲酒するアルコールの種類を調査した。最近1ヵ月間に一回でも飲酒したことがあると回答した者、7723人を解析対象とした。アルコールの種類と地理的要因、飲酒行動パターン、健康行動、危険行動との関連をロジスティック回帰分析を用いて検討した。</p> <p>結果： 高校生において最も好まれるアルコールは蒸留酒(43.8%)であり、次にビール(19.2%)、麦芽飲料(17.4%)、ワイン(3.7%)、ワインクーラー(3.4%)であった。年長者や頻回飲酒、大量飲酒、飲酒運転等の飲酒行動パターンや危険行動は、蒸留酒やビールを好む傾向にあった。</p> <p>結論： 問題のある飲酒行動パターンや危険行動は蒸留酒やビールの飲酒を好む傾向にあった。さらなる調査によって若年者の飲酒行動の要因を明らかにし、有効な介入方法を開発する必要がある。</p>	